

『なんちゃって支援からの脱皮』
～介護保険法目的の実践に至るまで～

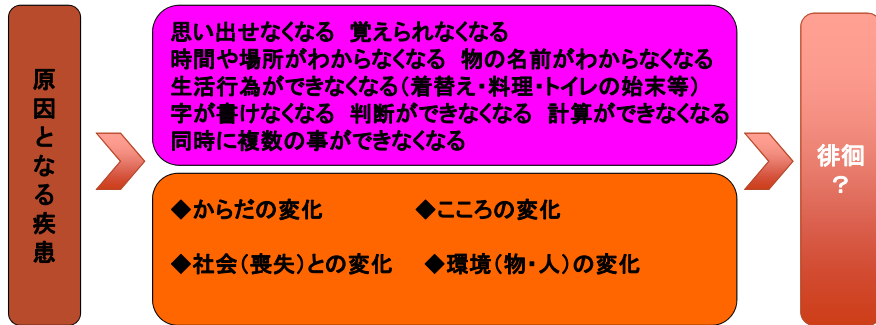
～人として生きることへの支援として～

アウル

最近感じている事

繋がり

例えば、なぜ『徘徊』が起きるのかを 考えてみてください。



怯えと不安 私は誰になってゆくのか?⇒私は私なる!
どうしたらいいのだろうか? ここはどこ? どこに行けばいいのだろうか?
知らない人ばかり! 嫌な音がする! 疲れてくる! ここにいたくない!
ここにいてはいけない! いてもたってもいられない!
知っている人は? どこにいるの? 安心する場所を探そう!
確かなものを探そう! 自分を探そう!

対人関係・会話・行動

- 関係⇒一方的な関係が許容される
- 会話⇒内容よりは雰囲気
- 行動⇒自分探し

なぜ、さわり・ふれるのか

- 失われていく世界とのつながり
- 失われていく自己
- 自分を探す旅

相互浸透する原初的身體

- 手を取ること
(手という実態が個体から離れて他に浸透していく)
- 見つめ合うこと
(まなざしという視線の運動が互いに浸透していく)
- うなづくこと
(うなづくという所作がまなざしの浸透を補完する)

かかわることの大切さ

- 手をとる
- 見つめ合う
- うなづく

地域密着型サービスの多機能化

- 小規模多機能支援
自宅を拠点としたサービス
- 積極的な生活支援
日常生活の支援: 食事全般・暮らし・娯楽など
- 多機能的支援
グループホームにおけるデイサービス／ショート
- 重度／最重度支援
看取り／ターミナルケア・退去支援など終末支援
- 相談支援(地域支援)
地域における認知症に関する相談窓口支援

自己紹介

社会福祉法人 幸清会 時代

昭和 63 年 社会福祉法人幸清会 特別養護老人ホーム幸豊ハイツ 寮父
平成 元 年 社会福祉法人幸清会 特別養護老人ホーム幸豊ハイツ 生活指導員
平成 3 年 社会福祉法人幸清会 デイサービスセンター幸豊ハイツ 生活指導員
平成 9 年 社会福祉法人幸清会 グループホーム幸豊ハイツ 主任生活指導員
平成 10 年 社会福祉法人幸清会 グループホーム幸豊ハイツ 副施設長
平成 13 年 社会福祉法人幸清会 退職

自己紹介

伊達市に有限会社グッドライフを設立。
グループホーム・DS・居宅「アウル」を開設
代表取締役総合施設長となり現在に至る。

- 平成13年 有限会社 グッドライフ
- 平成14年 GH アウル 2ユニット
- 平成15年 DS アウル(認知症単独)
- 平成16年 GH アウル登別館 2ユニット
- 平成17年 安心ハウス アウル
- 平成17年 居宅介護支援事業 アウル

具体的な取り組み

「認知症対応型共同生活介護」の実践

介護保険法 第一章 総則

(目的)

- **第一条** この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

認知症とは？

認知症とは(介護保険法上の定義)

(認知症に関する調査研究の推進等)

- **第五条の二** 国及び地方公共団体は、被保険者に対して 認知症(脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく脳の器質的な変化により日常生活に支障が生じる程度にまで記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。以下同じ。)に係る適切な保健医療サービス及び福祉サービスを提供するため、認知症の予防、診断及び治療並びに認知症である者の心身の特性に応じた介護方法に関する調査研究の推進並びにその成果の活用に努めるとともに、認知症である者の支援に係る人材の確保及び資質の向上を図るために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

厚生労働省のHP

- 認知症とは「生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで、日常生活・社会生活を営めない状態」をいいます。

WHO(世界保健機関)の定義

- いったん発達した知能が、様々な原因で持続的に低下した状態(年をとっても忘れがひどくなり、生活に支障が出ること)。
- 認知症とは、通常、慢性あるいは進行性の脳の疾患によって生じ、記憶、思考、見当識、概念、理解、計算、学習、言語、判断など多数の高次脳機能の障害からなる症候群である。
- ごく普通に社会生活を送ってきた人が、主に老年期に慢性の脳機能障害に陥り、判断能力等が異常に低下して社会生活に支障をきたす「認知(知能)障害」です。

ウィキペディア

- 認知症(にんちしょう、[英](#): Dementia、[独](#): Demenz)は、後天的な[脳](#)の器質的障害により、いったん正常に発達した[知能](#)が低下した状態をいう。これに比し、先天的に脳の器質的障害があり、運動の障害や知能発達面での障害などが現れる状態は[知的障害](#)、先天的に[認知](#)の障害がある場合は[認知障害](#)という。[犬](#)や[猫](#)などヒト以外でも発症する。

介護保険法の基本方針には

(基本方針)

「介護保険法」より

『利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むように』

疑問？

果たして自分たちが行っている支援は
認知症の状態にある人が
『自分らしく生きようとする』ということに
役立っているのだろうか？

19

アンケートにお答え下さい。

20

入居者(利用者)の皆さんは
どのような役割をしていますか？
若しくは、してもらっていますか？

質問項目

役割について

アンケート結果

所属

- 老健 5
- 特養 6
- デイ 4
- グループホーム 8
- 訪介 1
- 小規模 2
- ショート 1

(認知症介護実践研修 修了者)

入居者(利用者)は、どのような役割をしていますか？
若しくはしてもらっていますか？

| 順位 | 具体的な役割の内容 | 件数 |
|----|---|----|
| 1 | 洗濯物たたみ | 12 |
| 2 | おしぼりたたみ 掃除 | 9 |
| 3 | テーブル拭き 食器洗い | 8 |
| 4 | 食器拭き | 7 |
| 5 | 調理(手伝い/切る・炒める・米ときなど) | 6 |
| 6 | 洗濯物を取り込む/配膳/洗濯干し | 5 |
| 7 | 畑・花壇作業/盛りつけ | 4 |
| 8 | エプロンたたみ/牛乳パックをちぎってもらう | 3 |
| 9 | 下膳/味見/お菓子づくり/縫い物 | 2 |
| 10 | お茶入れ/カーテンの開閉/編み物/洗車/パソコン/縄ほどき 古新聞をたたむ/レクの声出し係/職員の手伝い/知恵袋 昔話/話し相手/人生相談 | 1 |

所属

- 特養 6
- デイ 4
- グループホーム 8
- 訪介 1

(認知症介護実践リーダー研修)

入居者(利用者)は、どのような役割をしていますか？ 若しくはしてもらっていますか？

| 順位 | 具体的な役割の内容 | 件数 |
|----|--|----|
| 1 | 洗濯物たたみ | 9 |
| 2 | 掃除 | 5 |
| 3 | 食器洗い | 5 |
| 4 | 調理の手伝い(味見・切る・炒める・米とぎなど) | 5 |
| 5 | 盛りつけ | 5 |
| 6 | 配膳／片付け | 4 |
| 7 | 洗濯物干し | 3 |
| 8 | テーブル拭き | 3 |
| 9 | 汚れを襲えてもらう／他の入居者を呼びに行ってもらう／洗濯物を取り込む／新聞を棚(いつもの場所)に置いてもらう／自分の洗濯物をタンスにしまう／駄菓子屋の店員(ケアハウスの入居者)／知恵袋／昔話／話し相手／人生相談／外出時のカメラ係／肩もみ／サークル活動の時の指導役／ムードメーカーなど／庭仕事／雪かきなど／牛乳パックをひろげる | 1 |

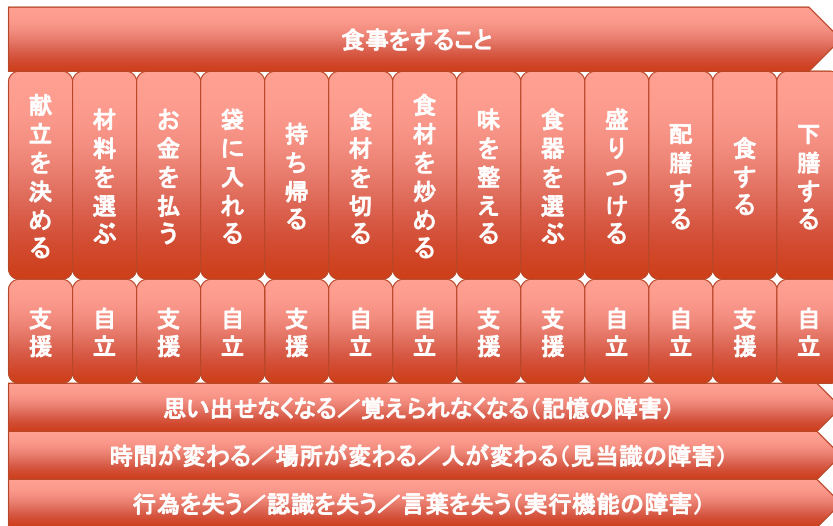
考察

- 片付け作業が中心である
- 役割ありき
- 『手伝い』という感覚
- 認知症の中核となる症状への働きかけを意識していない⇒すべてが単発でその場限り
- 何らかの役に立っているという働きかけとしての『役割』という認識

生活を支援することから見える
『認知症』と『人』の支援の実際

肉じゃが編

認知症の状態にある人の 生活と中核となる症状と支援と自立について



生活を支援するということは

認知症と向き合う

点から線へ

線から面へ

生活／支援の実際

『認知症』と『人』の支援の実際

スタッフの報告からみられる
様々な変化／苦悩と喜び

アウル

11月22日(金)登別館

昼食時、A様とB様で調理から盛り付け、配膳までされております。
夕食では冷蔵庫にあった春菊、白菜等からC様とD様に考えて頂き『お鍋でもいいね』と言うことで、すき焼きになりました。

ガスコンロを各テーブルにセットしたところ

E様に『認知症だからここに居るのに、火なんて危ない！事故があったらどーする？責任取れるのか？え？』等言われ、なかなか治まらない様子だったので、コンロの場所を変えました。

C様は『年寄りだって家に居たら火使うでしょ』等、気を使って言っ下さりました。少々口論になってしまいましたが、皆様美味しいね～と召し上がられ

ております。次回は違う返答を準備したいと思います。

11月24日(日)伊達

- 昼食、芋の皮むきをK様が自らされ、それにそそられたのか、Y様も皮むき野菜を切るなどし、カレーライスを作っております。
- 夕食は台所にK様、Y様が集合され、コロッケをスタッフと共に作られ、最後の仕上げの丸めは、K様の見事な手さばきには、スタッフ一同感動してしまいました。その誉め言葉に満面の笑みを浮かべ得意気に調理を行っているK様でした。
- F様は調理をしながら出来上がると本当に素敵な笑顔になられます。また明日も手伝うよ！の言葉も聞かれ、Y様は、明日の朝食の心配、K様は、米研ぎの心配もされることが見られます。
- 毎日の繰返しが、その言葉を生んでるのだと、感じています。

11月27日(水)伊達

- 面会には、K様長女様ご夫婦がこられ、丁度昼食の準備でかわむきをされているところに来られ『いや～かわむきしてるんだね』と。帰りには『じゃんじゃん、かわむきさせて！』と笑顔でおっしゃってくださり、『出来るんだね』と感心されてもおりました。今まで、調理された手際の良さ等もお話し、K様の得意気な笑顔もみられました。
- 夕食には、T様が支度から台所にOスタッフ(男性)と二人でたち、チキン南蛮を仲良く調理していました。
- 「今日は稼ぐわ」と笑顔で料理し、味付けを行っておられました。こんなに長く台所に立たれていたのは初めてでした。

11月28日(木)伊達

- 夕食は、今野様とスタッフが相談し、キノコご飯とホウレン草のごまあえ、リンゴのメニューを決めて、材料を切り分け、味付けをし、盛り付けをし、スタッフを叱咤され、『これでいいのかい？』と得意気な様子でした。
- 気がつけば、『私ご飯食べてないよー！』『なんで声かけてくれないのさ』『あんたがた薄情だね！』と言う言葉が少なくなっています。と言うか滅多に聞かれなくなりました。
- 繋がっているのだと、とても嬉しいですね。

12月4日(水)登別館

- N様が昼食後に「牛乳が飲みたい」と言われたので、牛乳を出すと「牛乳につられて今日も茶碗洗い」という俳句を言って、茶碗洗いしておられます。

12月5日(木)デイ

- 本日は利用者の方同士で話が盛り上がり台所になかなかこられず、一段落ついた頃に、スタッフが食器を少し音たてて準備してると、K様が「何かするのかい？」と台所にこられました。それを見てH様、T様、S様が台所にこられ、皆様で盛り付けやら茶碗洗いやら片付けをしています。
- N様と午後から外回りを掃除しています。K様、最近昼食あたりから「体が怖い」と元気がなくなるのですが、午後から他利用者の方とリビングで旦那さんの悪口をお互いに言いながら大爆笑していました。

12月5日(木)登別館(夜勤)

- K様に「お腹痛くて朝御飯作れない」と泣きついたところ、凜とした表情で「着替えたらすぐ行くから待ってて」と言われ、納豆混ぜと味噌汁作られてます「なんかあったら呼んでね」と頼もしい一言を残し居室に戻られました。
- O様に「お腹痛くて朝御飯作れない」と泣きついたところ「着替えたらすぐ行くから休んでなさい」と言われ何を作るか方向性が決まった所で「お姉さん、休んでなさい」と言われ、お言葉に甘えて横になりながら見守りしていたところ試行錯誤しながら自分で全部やろうとされておりました。感謝の気持ちを伝えると「ここはみんな親兄弟みたいなもんなんだから助け合わないとね」とありがたいお言葉をいただきました。
- N様に同様に伝えても響くことなく終了してます。

2014年2月7日(金)伊達

- 昼食は「お昼何にしようか〜?」と話をしていたら、「たまに麺もいいね〜」という話となり、K様が「汁作るかい?」と言ってくれたので、汁を作ってもらい、蕎麦とうどんと素麺を茹で、皆様好きな物を選び食べました。
- 夕食はK様が「やるよ〜」と自ら台所に来てくれ、芋が沢山あったので、肉じゃがを作ってくれました。

身体能力が低下している方々への 最近の試み

- 他の方と同じ食事内容に疑問？
- 『食材』は『食財』と考え、『食在』として有効に活かされるように生かすこと
- 身体＝身体能力が低下・消失した状態に対して、応じたケアを受ける
- 『生きること支援』を『食』を通して感じる事の出来るようにする。
- 見たり、触れたり、嗅いだり、聞いたり、味わったりと繋げてゆく支援を展開できる。

2014年2月7日(金)伊達

- O様、T様、C様には、野菜の材料、ねぎ、ピーマン、椎茸を臭覚と触感で感じて頂き、T様は、「これで何つくるの？」と話されたので（反応）献立の話をしてみました。
- O様にも食材に触れて頂き、臭いも感じて頂きました。ネギをしっかり握られ、「文夫！文夫！」（息子の名）と何度も大きな声で呼んでました。
- 果物や、色彩の鮮やかなものを視覚や、臭覚、触感で感じて頂けたらと思います。

2014年2月8日(土)伊達 『共同生活の響き合い』

- 昼食はラーメンとサラダを作ることになり、野菜を準備し始めると部屋からK様が出てこられ「それ何するんだ？」と野菜を指さし、その後、準備していた材料を全部切り出し、それを混ぜて味付けし盛付けまでされています。
- 昼食後K様の「おねえ、いつでもいいから買い物に車に乗ってつてくれ」の言葉に、F様にも声を掛けてみたところ「一緒に行く！」と、いつもは気が進まないはずのF様が珍しく乗り気でした。
- スタッフと一緒に農協へ行き、K様は「昨日肉だったから今日は魚！」とサバの味噌煮に決め、鯖を購入し戻られ調理されています。
- T様は、夜勤のOスタッフを待っていた様子で、Oスタッフが来ると「得意料理のカツを作る！」と張り切って台所に立っていました。

自尊心が高められること

大切なこと

『生きること支援が私たちの仕事です』

アウル

最後に

認知症を生きる姿からのメッセージ

『認知症になったらどうするか？』
も大事だが

『認知症になっても大丈夫！』
という地域(まち)や日本、世界にすることである！

出典及び協力をいただいた方々 (敬称略)

- 資料の提供(参考文献)等、ご協力をいただいた方々

宮崎和加子／著 田邊順一／写真・文

『認知症の人の歴史を学びませんか』 中央法規出版、2011年

阿保純子(長野県立看護大学 学長)講義より

47

ご清聴を感謝いたします ありがとうございました

- ご質問などがございましたら、下記へご連絡下さい。

〒052-0014

北海道伊達市舟岡町337-1

グループホーム アウル

Tel 0142-21-1680

Fax 0142-21-1682

〒059-0026

北海道登別市若山町3丁目8番地45

グループホーム アウル登別館

Tel 0143-88-3335

Fax 0143-88-3336

〒052-0014

北海道伊達市舟岡町340-14

デイサービスセンター アウル

Tel 0142-21-1150

Fax 0142-21-1160

総合施設長 宮崎直人

メールアドレス: owl0907@aioros.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://www.gh-owl.com/>